

連載
(全 4 回)

あるべき専門医療を実現する
第 2 回：ボード認定医制度



熊谷直大 Kumagai Naota

2005 年、新潟大学歯学部卒業。2006 年、タフツ大学歯科大学院 Esthetic Dentistry Fellowship program 修了。2009 年、タフツ大学歯科大学院 Postgraduate Prosthodontics program（歯科補綴専門医養成課程）修了、米国歯科補綴専門医。帰国後、医療法人社団日古歯科診療所に歯科補綴専門医として勤務。2010 年、タフツ大学歯科大学院修士課程修了（Master of Science）。2010 年～タフツ大学客員講師。

米国歯科専門医が目指す最終関門「ボード認定医制度」とは

米国歯科医師会（ADA）は、専門医となることを認めている 9 つの専門分野（歯科公衆衛生科、矯正歯科、歯内療法科、小児歯科、口腔病理科、歯周科、口腔放射線科、歯科補綴科、口腔外科）に対し、その認定を維持するために専門医学会とボード（Board）と呼ばれる組織を運営することを義務づけています。専門医学会は各専門医養成課程を修了し、専門医となった歯科医師が中心となって所属・運営する組織で、米国歯科補綴学会（ACP）や米国歯周病学会（AAP）などがあります（www.ada.org/494.aspx）。

日本ではあまり聞きなれない「ボード」ですが、これは専門医に試験を課してその合格者をボード認定医、ディプロメイト（Diplomate）として認定する機関を指します。各専門分野によって求める試験の内容は異なり、各分野の専門医養成課程の修了者にディプロメイト候補者としての資格（Board eligibility）が与えられます。専門医学会とボードは緊密な関係のうえに運営され、歯科医師養成課程（歯学部）と専門医養成課程の教育カリキュラムは、専門医学会の関与のもとに、ADA 内の組織である CODA（Commission on Dental Accreditation）において決定されます。

現在、各専門医養成課程の主任教授はディプロメイトであることが要求されています。また、他の大学教員のポジションについてもディプロメイトであることが望ましいとされています。さらに、米国ではディプロメイトである専門医に治療を受けたいという患者さんたちも数多くいます。

各専門分野のボード認定試験の受験者数や合格者数、ディプロメイト認定者数などは ADA によって毎年公表されています（図 1）。たとえば、歯科補綴分野の現役のディプロメイト数は 1,176 名です（2011 年 12 月 31 日現在）。現在、現役の米国歯科補綴専門医数が約 3,200 名（現役米国歯科医師総数約 17 万名）ですの で、歯科補綴専門医のうちのおよそ 30%強がディプロメイトとなっています。2011 年は、出願数 303 件のうち 50 名がディプロメイトとして新たに誕生しています。なお、ディプロメイト認定者は American Board of Prosthodontics のホームページなどで検索することができます（www.prosthodontics.org/abp/）。

たとえば地域を日本で検索すると、須田剛義先生（大阪市北区、タフツ大学卒業）、土屋嘉都彦先生（大分県佐伯市、インディアナ大学卒業）の 2 名が米国ボード認定歯科補綴専門医、ディプロメイトとして登録されています。

他の 8 つの専門分野のディプロメイトもそれぞれのホームページから検索することができますし、各専門分野のボード認定試験の内容や合格基準、また認定試験を受験する際のガイドラインも公表されています。

歯科補綴ボード認定の概要と取得までの流れ

- 歯科補綴ボードの認定ガイドラインによると、その目的はつぎのように示されています。
1. 認定者にボードが定める基準に達する知識と技術のあることを証明する。
 2. 認定者は補綴学に関して継続して熟練していることを証明する。

3. 公と専門家に認定者の情報を提供する。
4. ボード認定制度によって専門医制度の発展を促進する。

その目的を達成するために、ボード認定試験は図 2 に示す内容で構成されています。ボード認定を受けるためには、Part1 ～ 4 のすべてに合格するか、あるいは Part2 ～ 4 までの患者症例試験のうちの 1 つをシナリオ試験に代えた 4 試験すべてに合格しなければなりません。

Section B の患者症例試験では、各 Part の基準を満たした患者さんの「専用規格症例スライド」（口腔内写真、エックス線写真、技工操作の写真など、発表後すべて CD-ROM で提出）、「初診時スタディモデル」（咬合器装着）、「印象模型および作業模型の複製」（クラウンブリッジ、義歯）、「治療終了後の模型」（咬合器装着）、「患者全身既往歴問診票」、「検査、治療計画、治療経過の記録」、Part2 は受験者が技工作業者であることの確認書を準備して試験に臨まなければなりません。

もちろん、治療内容は補綴設計や印象採得、模型製作、補綴材料など、すべてにおいて科学的根拠に基づき、現在可能なもっとも理想的な方法を選択する必要があります。費用は理由にはなりません。また、Part2 の患者症例試験では、パーシャルデンチャーのフレームワーク以外はすべての技工を受験者が行わなくてはなりません（図 3）。さらに、試験官からの質問には、過去に出版されたすべての論文から臨床エビデンスに基づいて回答することが求められます（図 4）。

これらのボード認定試験の内容は、専門医養成課程の中で指導を受けます（図 5）。基本的には 3 年間の歯科補綴

専門医養成課程の中での教育そのものが、ボード認定試験の準備となるように制度が設計されています。Part 1 のコンピュータ試験と Part2 から Part4 の患者症例試験のうち 1 つの 2 試験は、専門医養成課程 3 年次から受けることができるようになっています。ボード認定試験は最初の願書を提出してから 6 年以内にすべての試験に合格しなくてはなりません。

ボード認定試験の準備過程でブラッシュアップされる専門知識

私はディプロメイトとなるために試験をあと 1 つ残しています。これまでの試験を通して、試験を受けるまでの準備は非常にたいへんであるということを感じました。とくに患者症例試験の準備は、基準を満たす患者さんがいなければ受験することはできません。また、治療前・中・後は必要な記録をすべて揃える必要があります。試験前は前述した提出物をすべて整理しなければなりませんし、試験会場までその資料を持参するとすると、専用のスーツケースが必要になるほどです。米国内ではたいてい飛行機で移動しますので、空港の保安検査場では必ずチェックを受けますし、そのときに管理が悪ければ模型が破損したりします。試験前日にホテルで模型を修理することになった友人もいました。

このように、ボード認定試験への準備の過程で歯科補綴の専門的知識が科学的根拠に基づいて整理され、それをもって患者さんへの治療として実践できることになります（図 6）。

本稿を執筆するにあたり、タフツ大学の平山 洋先生、鈴木清貴先生にご協力いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

CERTIFICATION AND EXAMINATION DATA										
	DPH	Endo	OMP	OMR	OMS	Orth	PD	Perio	Pros	
Founding Date	1951	1956	1948	1979	1946	1929	1940	1940	1946	
Date ADA Recognition	1951	1964	1950	2000	1948	1950	1948	1948	1948	
Number Certified Without Examination From Founding Date Through 12/31/11	12	34	7	74	15	98	7	0	69	
Number Certified By Examination Through 12/31/11	299	1,486	461	123	7,340	7,610	3,750	3,112	1,778	
Total Certified Through 12/31/11	314	1,520	468	197	7,335	7,708	3,757	3,112	1,867	
Number Deceased, Dropped or Placed on Inactive Roll Through 12/31/11	155	616	152	77	2,353	4,786	220	475	605	
Number of Active Diplomates as of 12/31/11	159	904	323	121	5,186	4,436	3,509	2,648	1,176	
Total Number Diplomates Recertified since Inception of Recertification.	14		18	51	1,457	575	181	2,963	696	

+includes reinstated diplomates
++ adjustment of -500 counted in error

図 1 歯科公衆衛生（DPH）、歯内療法（Endo）、口腔病理（OMP）、口腔放射線（OMR）、口腔外科（OMS）、矯正歯科（Orth）、小児歯科（PD）、歯周（Perio）、歯科補綴（Pros）のボード認定試験の受験者数や合格者数など。赤枠は左表より 2011 年ににおける歯科補綴の現役のディプロメイト数と合格者。（米国歯科医師会の WEB サイトより引用一部改変）



図 3 ポーセレン（PFM）クラウンの技工デモを受ける学生（技工士は大石幸男先生）。



図 4 論文ごとの臨床エビデンスのレベル。



図 5 ボード認定試験について説明を受ける学生。



図 6 技術よりも科学的な専門知識に基づく結果が求められる。

Section A （コンピュータ試験 4 時間） ・ Part 1
Section B （患者症例試験、症例プレゼンテーション 20 分、質疑応答 40 分） ・ Part 2（2 本以上のクラウンブリッジとパーシャルデンチャーの症例、パーシャルデンチャーのフレームワーク以外はすべての技工を受験者が行う） ・ Part 3（20 本以上クラウンブリッジの症例、上下顎どちらかはフルアーチのクラウンブリッジ、対合は 6 本以上のクラウンブリッジ） ・ Part 4（上下総義歯症例） ※いずれか 1 つはインプラントを含む症例
Section C （シナリオ試験 20 分×3、合計 10 症例ほどのスライドを見て受験者が診断、治療計画、治療、治療後についての質問に答える）

図 2 歯科補綴分野のボード認定試験の内容。